

演題名：企業健診・外来での“インスリン不全症”検出と是正への標準食の有用性、

栄養・生活指導の臨床的意義

【目的】 糖尿病病名としてインスリン（以下「イ」とする）不全症を提案（糖尿病学会-協会へ）。食事・標準食からイ不全症を検出し生活習慣みだれの主因を追及、是正を目指した。

【方法】 企業健診で Cookie t 食（サラヤ）と同一組成の昼食；エネルギー662 kcal、糖質 75 g（米飯）、たんぱく質 27.1 g、脂質 28.6 g の食後 2 h 採血にイを追加した。外来では Cookie t 又は 75 g 糖質主食摂食前後（空腹、1, 2h）採血。体型・体組成・所見、イの良作用低下、代償不良作用過剰の面から生活習慣を是正。

【結果】 イ不全症は 1 群；イ良作用低下；高血糖、2h PG \geq 140 mg/dl, HbA1c \geq 5.8%、2 群；左記正常、高イ血症；（ \geq 22 μ U/ml、血糖 $<$ 140）, 3 群；1, 2 群両基準満たず、4 群；イ抵抗性が知られている高血圧・慢性腎不全・脂肪肝・認知症・骨粗鬆症・サルコペニア他が該当（今回省略）。企業健診：35 及び 40 歳以上 40 名でイ不全症 1 群は 9 例（23%）、低イ例は 1 例、2 群 9 例、3 群 6 例（15%）。低イ血症 5 例を加え 58%がイ不全症。計 3 回の指導で 1 年後、1~2 割の改善を見た。1 群は、腹囲・血圧・血糖、ALT（脂肪肝）高値、2 群は肥満、高血圧、高 TG を示し、3 群は腹囲、血圧、尿酸、HbA1c が高値で、良作用減、不良過剰症の病態が示された。外来：イ不全症 36 例中、1 群 27 例（75%）：神経障害/腎症有り 19 例（70%）。尿糖排泄薬を含む従来薬では、HbA1c は良好でも全身・筋・肝での糖代謝は低下していたが、新薬使用（ツイミーグ）の 1 例では、標準食摂食 2 h 血糖から得られる全身糖クレアランスは、6.5ml/kg/min と正常化していた。2 群は 3 例（8.3%）、高 TG, 高血圧、肝機能異常、3 群は 7 例（19%）。大血管障害は 1, 3 群に見られ、治療は不要。

【結語】 イ不全症は健診の 58%と高率で、外来でも高イを示す 2, 3 群は 28%、高血糖を含めイ不全症として捉えると、臓器別糖利用正常化も含めた早期対策に意義深い。